日本人的子女教育观PDF转换可能丢失图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/251/2021_2022__E6_97_A5_E6_9C_AC_E4_BA_BA_E7_c105_251951.htm 娘が自慢（？）のをばっさりと切った。もうすぐ５になるのだが、これまでほとんどの毛を切ったことがなかったので、腰に届きそうなくらいかった。それを思い切って切ったのは「Locks of Love」（ロックス#12539.ラブ）といって、かつらが必要な病の子どもたちや大人に提供するためのプログラムに参加するためだ。 近所に住む仲のいいおちゃんが、を寄付したのをて、娘も「切りたい」といいだした。私もいつかは娘のを役立たせたいと思っていたので、ちょうどいいタイミングだった。 この「Locks of Love」（ロックス#12539.ラブ）という名前、“ Lock ”とは、「をする」などのロックと同じつづりではあるが、「の束」という意味がある。条件に合わせて自分でをカットして、体に送ることもできるし、美容院でもやってくれる。美容院での毛をカットする合、洗とカット代は料になるところがほとんどだ。お金はチップをうだけでいい（チップもいらないとはいわれるが）。 娘にとって初めての美容院。シャンプ台でを洗ってもらったり、手を引かれながら店内を移したり、大きなの前でヘアカットしてもらい、プリンセス分を味わった。 三つみにして１０インチ（２５センチ）が必要なため、想像していたよりもさが必要だった。切った後はかなり短めの「おかっぱ」になってしまった。娘ははじめ、に映った自分を「ちょっとプリンセスじゃないみたい」とすねていたが、

店たちからも「こんなにかわいい女の子、たことないわ」とか「素ねぇ」「かわいいわ」とされ、「に入ったわ」といって足そうに店を出た。 今、を切ってから２がたったが、会う人、会う人から型がわったことをいわれ、を寄付したことを告げると例外なく「素晴らしいことをしたのね。いわ」と誉めてもらえる。娘はテレながらも、まんざらでない表情をせている。 は、私の妹は白血病で１０の短い命をえている。２０年以上前のだ。放射能治で彼女の自慢だったきれいなもけてしまっていた。おしゃれだった妹にとって、それはとてもつらいことだった。「おねえちゃん、きれいでしょ」といってをとかしていた元なの妹の姿を今でも思い出す。あの、かつらをもらっていたら、どんなに喜んだだろう。「Locks of Love」のホムペジには、かつらを提供された子どもたちのうれしそうな笑がっている。娘のが、ひとりの子どもの笑を作り出してくれると思うと、とてもうれしく思う。 ○……今の土曜日、日本校で会があった。校では、いろいろな日本的行事を工夫しながら行っているが、この会は子どもたちが一番しみにしている行事だ。万国旗がはためく中、「玉入れ」や「二人三脚」などアメリカの学校ではなかなか体できない技をした。今年から加わった技の中に「跳び」があったが、知らない子どもたち多く、２人が交互に跳びをしていくという日本ではもが知っていることがわからなかったらしい。ていたら子どもたちは助走を大きくとってやっと跳べていた。跳び箱をやったことがないという子どもが多いので、仕方がないことなのだろう。 古川直子（ふるかわ#12539.ドナッツのコヒが

好物になった。野球はレッドソックス、アメフトはペイトリオッツのファン。すっかりニュイングランドの人になってきたとイギリスでは、子どもたちが４から学校に通うことが普通だ。教育は５からなのだが、１年生の下に「レセプション#12539.クラス」に入った、学校生活はびが中心なのではないかと思っていたが、そうではなくて、教室でみきや算など本格的な学が行われた。英の本を日持ちって自宅でもみ方のをしなくてはならなかったので、息子がかわいそうに思えた。 幼を学させることについては、幼教育者のでは批判があるとはいえ、すでに制度として定着しているのが。イギリス人のたちは、わが子が早くからみきをえることを喜び、支持しているようにえる。 私は最近、ウェルズ（注１）に仕事で行って、ウェルズが幼をのびのびとばせる体制に移行中であることを知った。ウェルズはこれまでイングランドと教育体制を共有していたので、４からの「早期教育」も施していた。しかし、「幼いうちから机に座らせて学させることは逆果」とのにし、方したという。３から７までを「基段期」として独立させ、外での活を重して幼がびながら学び、社会性を身に付けていくような体制にする予定で、２００８年度の施を目指して在、カリキュラムを作成中だ。フォマルな学の始は子どもが７になるまで待つという。 ウェルズ地方政府のロドゥリ#12539.ロンドンに在住し、「サンデ日」など日本のに英国事情を。英国人の夫と、12、６の男の子の４人暮らし。2004年夏、イギリスの保育&#12539.教育事情をまとめた「文化で子どもが育つとき」（草土文化）を出版した。まもなく５にな

る女と２半の二女がいる。女が２をぎたころから保育施に少しずつお世になり、お弁当を持たせるようになって早３年になる。最近、子どもの幼稚で他の子どもたちのお弁当をる会があった。 オストラリアでは保育などで食が振る舞われるところもあるが、お弁当を持参させるところのほうが多い。 女が保育に行きはじめた当初は乳食の完了期にあった。家では具だくさんの味噌汁などを利用して子どもに野菜や肉、を食べやすいようにほぐし与えていた。しかし、お味噌汁を持参させ、保母さんに「これを温に暖めて、ごと一にうまくあげてください」とむわけにもいかず、オストラリア生活の子育てにまだ不れだった私は、サンドイッチやおにぎりなどをみながら持たせたものだった。 最近は子どもも大きくなってきたので、乳食のみはなくなった。そして、子どもが拒否しない限り、自分流のお弁当を持たせる心もついた。そんな中、女が通う幼稚でデイリロスタ（幼稚１クラスの中からひとりのが出席し、日、とごごしながら先生を手い、しい？１日をごすもの）をした。日、クラスの中のかしらのお母さん（お父さん）が来ているので、子どもたちもれたもので、自分のが来ている子どもは大して、うれしそうだ。そのときに、私が味のあったお弁当のも子どもたちと一に食べることができた。 さて、その中身はというと、ほとんどの子どもはサンドイッチをメンにしている。サンドイッチにはさまれているものは、ハム、チズ、ベジマイト（オストラリアで有名な品。野菜を原料にして酵したペスト）、ジャムなどだ。明らかな形で野菜がはさまれているものはかけなかった。メンのほかに

は、果物やマフィン、ヨグルト、などの甘いものが人のようだった。しかし私をかせたのはランチボックスの中にサンドイッチのほか、ポップコン、コンフレクなどの小袋が２、３入っていたお弁当だった。 そのお弁当箱をけた子どもはサンドイッチをひと口かじり、ゴミ箱に入れ、お子の袋をすべてけ、どの袋も中途半端にわらせててていた。まあこれは端な例にしても、バランスのいいお弁当を食べている子どもは少ないように思えた。 あるオストラリアのリサチで、小学生の５人に１人、高校生の４人に１人が朝ごはんきで学校にやってくるという。体やが成する大事な期に朝食をいたうえ、昼ごはんもスナックのような食べ物を食べていたら学校生活に支障をきたすだろうと、他人の子ながら心配になった。 小学校以上の学校にはタックショップと呼ばれる店がある。学校によっていはあるが、そこでされるものはジュスや、サンドイッチなどのほか、アメやスナック子、ピザなどがあるようだ。スナック子やジュスで血糖をすぐに上げれば、一的に足は得られるけれど、すぐに空腹になってしまう。そして、また同じような食事をしてしまい、太っているのに失の子どもが出来上がってしまうだろう。今、オストラリアでは肥と糖尿病が国民の健康をおびやかしている。学校の食堂でも朝食をしたり、のいい食品を置くようなきが出てきている。 オストラリアにはおいしいフルツがたくさんあるし、主食であるパンのも富だ。これを利用して、お弁当を用意してあげたいものだ。

100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 www.100test.com